

地域の活動拠点のあり方検討会 ニュース

In 加木屋

No.003

発行者：

東海市総務部市民協働課

地域の活動拠点のあり方を考えています！

- 加木屋地区では、令和4年度（2022年度）に地域の将来像「かぎや将来ビジョン」を策定し、その実現に向けて様々な活動を展開しています。
- 令和6年度（2024年度）からは、地域課題の解決や活力の創出につながる取組を行うための活動拠点のあり方について検討しています。
- 第4回は令和7年（2025年）1月15日（水）に加木屋コミュニティセンターで開催しました。（参加者16名）

候補地の「メリット」「デメリット」について意見交換！

- 第4回では、これまでの内容を踏まえて候補地の「メリット」、「デメリット」について以下の6つの視点を基に意見交換を行いました。

◎…メリット ▲…デメリット（懸念事項）

候補地 視点	A_市民館北側用地	B_市民館南側用地
安全性	◎①の場合、イベントを実施する際に安全な屋外スペースが確保できる	▲白塗りの用地は子どもが道路に飛び出す可能性が高くなる（エントランスの柵の付け方に工夫が必要）
アクセス性	▲新たな施設と市民館を改修した施設の双方の連携、動線に留意	▲新たな施設と市民館を改修した施設の双方の連携、動線に留意
駐車場・駐輪場の確保	◎南側に集約できる ▲南側に集約した場合、施設との距離、動線に難がある	——
災害時の対応	——	——
将来負担（コスト）の縮減	——	——
早期実現性	——	◎③に2階建施設を整備するのが早期実現性があり現実的（施設の設計期間などを踏まえると整備時期に大差はない） ▲線路が高架になり電車の騒音は減ったが、市道の車の騒音はある
その他	◎新たな施設と市民館体育室を一体的に活用できる ◎①の場合、②を中庭スペースとして活用できる（区画整理で整備される公園との一体的な利用も可能） ▲②の場合、コミュニティセンター（町内会所有）の出入口や市民館体育室の外扉をふさぐため不便 ▲現状の使い方（盆踊りなどの行事、コミュニティセンターを考えると使い勝手が悪い） ▲②の場合、南北のつながりが途絶える	

今後は…

- 引き続き、地域の合意形成を積み重ねた検討を進める
- コミュニティ等の関係者を中心に地域の活動拠点のあり方についての情報を提供し、意見を集約する

本取組に関するご質問等は下記までお問い合わせ下さい

連絡先：東海市市民協働課

電話：052-613-7526, 7527/0562-38-6141, 6142

Email chiiki@city.tokai.lg.jp